

# KURUMI NEWS LETTER

2023年2月

## 新年のご挨拶

日々の忙しさにかまけて、ニューズレターの発行がすっかり遅くなってしまいました。気付いたらもう前号の発行から一年が経とうとしています。一部の方にはご心配をおかけしましたが、何とかがんばっています。

今年はくるみができてから10年目を迎える節目の年です。

うさぎ年にあやかり「飛躍」の年にしたいと思っておりますので、みなさまのお力添えを引き続きよろしくお願い致します。

本ニューズレターも多くのみなさまの思いがギュッと詰まった内容です。どうぞお楽しみください！ 太田



## 2/13 黒川の自然を楽しもう

くるみさんよりお誘いを受け、今回で2回目の参加となりました。当日は天候が心配でしたが、みんなで電車山散策に出かける事ができました。恒例の(?)ターザンロープもやりました!子どもも大人もハラハラドキドキ・・・一回チャレンジしてしまえば慣れたもので「私も!僕も!」と次から次へと。自然の中、ロープに身をゆだねての浮遊感・・・非日常の体験を満喫しました。

散策の後は雨が降り出し、室内活動となりましたが、それはそれでのおんびり。所長口バさんの手ほどきを受けて作ったフェザースティックで火をおこし、軒下で石焼き芋作り。焼けるまでの間、面白いダンスを踊って体をほぐし、子どもたちが作る自家製焙煎珈琲をみんなで見守りました。

おいしい焼き芋とコーヒー。暖炉のめくもり。おしゃべりタイム。みんながりのままでいられる雰囲気の中、ほっこりとした豊かな時間を過ごすことができました。みなさん、ありがとうございました!!! (宇津木健二)

## トピックス

- ①黒川の自然を楽しもう
- ②ドラム缶ピザ作り
- ③有井さんのカレーを食べる会
- ④くるみオンライン研修
- ⑤プログラミング講座
- ⑥バスハイク
- ⑦発達障害研修
- ⑧オンラインおやじの会
- ⑨ゆめパのじかんオンライン上映会
- ⑩青年たちとの関わりを通して

## 7/9 ドラム缶ピザ

初めてドラム缶ピザ作りに参加しました。行く前までは自分にピザ作りなんて出来るのだろうかと不安でしたが、同じグループの方が丁寧に手順に沿ってサポートして下さい、安心して作業を進めることが出来ました。焼き上がりまでは黒川の自然を感じ、とても良いリフレッシュになりました。そして、待ちに待ったピザが焼き上がり、皆で美味しく楽しく食べられて良かったです。

参加してみて、皆さんの優しさに包まれ、幸せな気持ちになりました。

また、スタッフも臨機応変に動いてくださり、自分も見習わなければと思いました。

ありがとうございました。 BY めい



## 有井さんのカレーを食べる会

子ども食堂のシェフもされている有井さんのご協力をいただき、くるみのおうちが完成した2020年の夏より、コロナ禍でも工夫を凝らして開催して参りました。回数を重ねるうちに「もっとゆっくり滞在したい」というご要望をいただくようになり、残念ではありましたが終了の運びとなりました。多くの人にくるみのおうちを知っていただく良い機会となりました。ご協力・ご参加いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。 事務局 磯

### くるみのおうち開放日

カレーを食べる会に代わるイベントとして、不定期で開放日を設けております。

くるみ公式LINE  
を  
チェック!!



# 2/19 くるみオンライン研修

自閉症と生きる～求められる理解・支援とは～

くるみインターン生 山田雄大さん



前年度太田親子の密着取材をしてくださいました本田慧さんのご紹介で、「みんなの学校」上映会にスタッフとして参加してくれたのが、当時早稲田大学政経学部3年生であった山田雄大さんでした。その一カ月後にインターンスタッフ生に名乗りを上げてくれて、約一年間、足繁く「くるみのおうち」に通ってくれました。彼は「社会環境の厳しさ」「本人や家族の苦悩」「事業所の視点」「行政や制度の限界」そして「本人・家族が地域でその人らしく豊かに暮らせる社会を創るために一人ひとりができることは何か？」を真剣に考えてくれました。そして「おになろう会」の新井先生や、太田の息子の直樹さんの通所施設にまで取材を敢行し、自身で集めたデータも含め、とても完成度の高い卒論ルポを書き上げてくれました。完成でホッとしたのもつかの間、「これは素晴らしい内容だから、是非くるみの関係者に見てもらおう」という太田の提案で急遽決定したオンライン研修でした。

雄大さんの発表後、参加していただきました皆さんがそれぞれの思いを語り合うという時間も生まれ、とてもあたたかな場となりました。見逃し配信も含めると32名の方にご参加頂きました。

以下は研修を受けられた方の感想の一部です。

- ・心がとてもあたたかくなる時間をありがとうございました。
- ・苦しんでいるのは自分だけではないと分かり勇気づけられた
- ・太田さんがそんな大変な状況にあることを知らなかったので知ることができてよかった。
- ・公助の不足や厳しい現状を目の当たりにし、自分のできることを考えていきたい。
- ・あなたに出会えて良かった。これからもがんばってください。

\*雄大さんは現在、某放送局で記者として多忙な日々を送っています。  
持ち前の熱意と粘り強さを発揮して、明るい未来を掴み取ってください。  
くるみのみんなが応援しています。

(雄大さんの卒論ルポはこちらからお読み頂けます)



## プログラミング講座

講師 えでい

昨年のプログラミング講座は、6月から11月まで、第3土曜の午後に定期開催という形で計6回実施しました。内容は、小学校でのICT推進の流れを意識して、実際に学校の授業の現場で行われている題材を取り入れ、毎回、新規の内容に取り組みました。

新しいことにチャレンジしようという意欲を持って取り組んでくれたり、難しいながらもあきらめず、しっかりと自分のオリジナルの色を出して楽しんでくれたようです。ご本人をサポートするために、家族全員で参加してくれた方々もいました。

今年はまたやり方を見直して、くるみのおうちでの開催を中心に、希望に応じてオンラインも受け付ける形にしようかと思えます。内容については、一番人気のあった物語の場面を描く、「動く絵本」を中心にしようと思えます。

詳しいことが決まり次第、開催案内を出しますので、ご期待ください。



## 10/22 バスハイク

息子と沼津に行くなんて、今まで出来なかった  
ので本当に有り難い1日となりました。異年齢の  
皆様とバスの中から温かな雰囲気、伊豆パノラ  
マパークへ到着し、絶景の中の昼食、散策、皆さ  
んの配慮や青年スタッフの気遣いや面白さにとて  
も楽しい時間を過ごす事ができました。

その後のみかん狩りも、食べ放題のみかんを頼  
張りながら周りの方々と和気藹々と今までにない  
みかん狩りを味わう事ができました。最後に寄っ  
た海老名SAでもお土産購入、お喋り、美味しいも  
のに目移りしたり（笑）最後の最後まで余す事な  
く楽しめました。機転の効くスタッフ、場を和ま  
す青年たちと笑顔の子どもやホッコリしている大  
人たち。本当に素敵なバスハイクでした。

（もとまま）



## オンラインおやじの会

くるみでは、2ヵ月に一度くらいで「おやじの  
会」と称したオンライン会合（飲み会）を行って  
います。この日（去年8/27）はくるみ会員家族の  
お父さんを中心に9名が参加。20代の青年と40～  
60代の多様で素敵な「おやじ」が参加しました。

当日の話題は、最近楽しみにしていること、障  
害のある子どもの二人暮らしでのコロナ禍の苦労、  
制度への疑問、二次成長への対応、進路の悩み、  
手帳判定などなど。話題は尽きず、あっという間  
の2時間半となりました。

時折リアルでの集まりも交えながら、ゆるゆる  
行っている、おやじ同士のピアサポートを大切に  
した会です。参加してみたい方はぜひお問い合わせ  
ください。（なおパパ）



## 11/9 発達障害研修

川崎市社会福祉協議会様からの依頼により、発達障害研修  
の講師を務めさせていただきました。3年目となる今回のテ  
ーマは「発達障害のある人の青年期をどう支えるか？」

会場参加とオンラインのハイブリッド開催でしたが、とて  
も関心は高く、各々定員いっぱいのお申込みをいただきまし  
た。親の立場、そして支援者の立場から、これまでの子育て  
と青年たちとの関わりから学ばせてもらったこと。青年期に  
起こり得ること。親や支援者として試行錯誤してきたことと  
そこにかける思い。そのような内容で2時間お話しさせて頂  
きました。

＜ご参加頂いた方の感想＞

- ・親目線の話が、とても勉強になりました。
- ・躰くポイント人は人それぞれ。その人に合った支援が必要。
- ・SOSを出しやすい環境を作ることの大切さがわかった。
- ・本日の学びを施設勤務の仕事に生かしたいです。

ご参加頂いたみなさま、社会福祉協議会のみなさま、スタッ  
フのみなさま、この度も貴重な機会を頂き、ありがとうござい  
ました。

（次ページの内容も関連しておりますので、ご覧下さい）



## 11/6 ゆめパのじかん オンライン上映会

いつもお世話になっている「子ども夢パーク」のドキュメ  
ンタリー映画「ゆめぱのじかん」を開催しました。「オンラ  
イン上映会」は初めての試みなので、どうなる事かと思いま  
したが、「自分の予定に合わせて鑑賞できてよかった」との  
感想が多く寄せられ、ホッとしました。

一般公開中であることに配慮する必要があり、オンライン  
上映会の広報手段に制約があることがわかり、急遽チラシを  
関係各所に配布しました。「こんなこともあったね」と、良  
い思い出のひとつになりそうです。映画のタイトルに似て、  
「くるみのじかん」が生み出されました。（翠香）

# 青年たちとの関わりを通して

くるみでは、今年度までの3年間、休眠預金を活用した助成金を頂いて、様々な事業活動を行って参りました。

以下は助成元への事業報告として提出した内容の一部を抜粋したものです。

知的・発達障害のある人と家族を取り巻く環境がもともと厳しい中、コロナ禍以降はさらに厳しさが増していった。その影響が特に大きく出ていたのがくるみに関わる当事者青年たちであった。彼らはDV等の理由で家庭に居場所がない、理解ある職場や上司に巡り合えず仕事が長続きしない、精神疾患があり外出ができない等、社会的に孤立しやすい状態に置かれていた。コロナ禍以降、その状況に拍車がかかり、家から出ると言われているが行き場がない、失職してしまって家賃が払えない、トラブルや犯罪に巻き込まれる等、大変深刻な状況に陥っていった。

そのような青年たちを目の当たりにして、何も動かないわけにはいかない。危機的な状況にある青年をくるみのおうちで一定期間受け入れた。短い場合は1週間ほど、長い場合は4カ月ほど、計5名の青年と暮らしを共にした。同じ釜の飯を食べ、寝食を共にする中で、彼らから出てきた言葉は「相談できる人がいない」「行ける場所もない」「制度のことはよくわからない」「親から『お前の努力不足』と言われ、がんばりすぎて疲れた」等であった。



日本の福祉制度は「申請主義」と言われるように、制度を知り、自分の意思で申請しないと福祉サービス等の公的支援に繋がることができない。そのハードルはかなり高く、家庭に頼ることができない若者の多くはそこに辿り着けない。また、仮に相談に赴くことができたとしても、白い壁に囲まれた狭い「相談室」で「専門家」と言われる初対面の人が正面に座って「今日はどうしましたか？」と聞かれる状況で、自分の悩み事を素直に話そうと思えるだろうか？「相談したいと思える人なんていないし、気軽に集えるような場所なんてどこにもないじゃないか」というのが、彼らの偽らざる本音ではないだろうか？

そのような問題意識から、くるみのおうちで受け入れた青年たちの自立を応援すべく、彼らの声に耳を傾け、必要に応じて支援機関への繋ぎなどを行うとともに、厳しい状況にある青年たちが気軽に集える場づくりに努めた。彼らの多くはくるみ主催イベントで進んでスタッフの役割を担ってくれ、事務局スタッフ、大学生インターンなどの人たちと多くの活動を共にした。おやじの会にも喜んで参加するなど、活動への参加が増えた。それに伴い信頼できる大人との関わりが増え、彼らにもくるみにも好影響をもたらした。

このように、彼らは一方的に支援を受ける立場に在るのではなく、くるみの事業の一翼を立派に担ってくれている。彼らは、我慢するのが難しかったり、飽きっぽかったり、失礼だったりもするけれど、実は情に厚く、友達思いのいいヤツばかりだ。これからも彼らの自立（大変なことがあっても、あくまで自分らしく、何とか生き抜くこと）を応援しつつ、共に生きることを楽しんでいきたい。（太田）

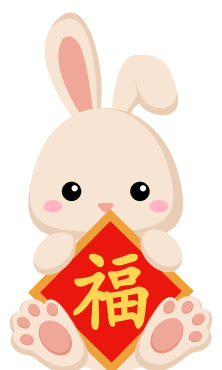
## ご寄付頂いたみなさま、ありがとうございます！

(2022年2月～2023年1月19日)

安倍昭恵 石原由美子 磯尚子 伊藤諒 上田遥 梅北紀子 大河原淳一  
大澤洋子 大嶋恭子 太田修啓 岡安玲 奥村悠子 大日方郁夫  
大日方輝之 神田啓子 久保埜恵理子 倉田和美 小松原早貴 佐々木靖  
佐藤由加里 澤典子 島崎祥子 島根大二郎 新保浩 末吉景子 高橋香  
永井康幸 中村茂 成田孝子 西野祥子 根岸睦美 野村浩 長谷川秀夫  
原正雄 日原信彦 前田庄一 町田勇 町田真由美 松田智広 松山洋  
光富真希子 三星とく子 宮崎雅大 森口奈津子 森田吉廣 山崎奈美  
山崎梨紗 山下靖子 山田雄大 山本幸子 吉松梓 (50音順/敬称略)

## ご寄付のお願い

これからもくるみの事業活動を継続することができるよう、ご寄付によるご支援をお願い致します。



お問い合わせはこちらのアドレスまで [kurumi.no.ouchi1970@gmail.com](mailto:kurumi.no.ouchi1970@gmail.com)